

## 令和5年度 第2回 学術研究プラットフォーム運営・連携本部会議 議事要旨

日 時： 令和6年3月21日 15:30-17:30

場 所： Web 会議システム

議 事：

### 1. 議事要旨確認

黒橋本部長より、資料2に基づき説明があり、内容に意見があれば会議終了までにご意見いただくこととして了承された。

### 2. 2023年度 学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

鷹野学術基盤課長より、資料4に基づき、学術情報基盤オープンフォーラム活動について報告があった。

### 3. 令和5年度 第2回 整備推進委員会報告

合田委員より、資料5に基づき、整備推進委員会について、NIIの活動内容説明や委員の所属機関における活動事例、今回は早稲田大学や弘前大学から紹介があった旨説明があった。

### 4. ネットワーク事業・運営委員会報告

栗本教授より、資料6に基づきネットワーク事業及び運営委員会について報告があった。

### 5. DX・クラウド推進事業・運営委員会報告

合田委員より、資料7に基づき、DX・クラウド推進事業及び運営委員会について報告があった。

### 6. セキュリティ事業・運営委員会報告

南委員より、資料8に基づきセキュリティ事業及び運営委員会について報告があった。

### 7. 情報セキュリティポリシー推進事業・推進委員会報告

中村委員より、資料9に基づき情報セキュリティポリシー推進事業及び推進委員会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ CISO アクションガイドラインの策定については現在どのような状況か。

- 最終的な見直しを行っており、今年度末に公開予定。
- ・ AI 対応について継続検討となっているが、今後の予定はあるか。
  - 各大学で独自に方針を出していると思うが、それらと大きく違うものを作ろうとはしていない。サンプル規定集の更新に AI を活用する話も出ているが、これについても具体的には進んでいない。

## 8. 研究データ基盤運営委員会活動報告

込山准教授より、資料 10 に基づき、研究データ基盤運営委員会及び作業部会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ OA アシスト機能について、どのようなものか伺いたい。
  - 論文のオープンアクセスポリシーを検索する機能である。
  - 従来は大学図書館職員が論文データベースで論文を把握し、その論文が掲載されているジャーナルの OA ポリシーを調べた上で、著者である先生に対して著者最終稿をリポジトリに載せるか尋ねていた。これを効率化するために、API を使って論文の検索やポリシーの確認を自動化するのが OA アシスト機能である。
  - OA ポリシーでリポジトリに格納できないことがあるのか。
  - 最近著者最終稿であればリポジトリに載せられる場合がほとんどである。
  - OA アシスト機能はいつから使えるようになるか。
  - 来年度の夏頃に先行利用機関に試していただく予定。
- ・ 合成音声付き動画教材作成システムについて、本人の声を使って音声を合成できないか。
  - そのようなことも課題になるかもしれない。
- ・ 来年度の研究データ管理スタートアップ支援事業について、どのような状況か伺いたい。
  - 予算としては 1 つの地域で立ち上げを予定しているが、複数同時に立ち上げ可能であれば予算措置をした上で少しでも早く全国展開したい。
- ・ 即時 OA 加速化について、具体的に RDC にどのような機能を加えて実現するか検討しているか。
  - 各チームで検討を進めている状況。

## 9. 学術認証推進事業・運営委員会報告

坂根学術認証推進室長より、資料 11 に基づき、学術認証推進事業及び運営委員会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ 学認を退会した機関について、退会理由を伺いたい。
  - IdP の大学統合によるものが 1 件、SP のサービス提供終了によるものが 1 件あった。

#### 10. 学術認証推進事業 第 4 期中期目標期間 事業計画

坂根学術認証推進室長より、資料 12 に基づき、学術認証推進事業 第 4 期中期目標期間 事業計画について説明があり、関連して以下の議論があった。

- ・ 実装の研究やポリシー寄りの IAL/AAL と思われるが、コードベースがセキュアに保たれるかといった話はあるのか。
  - 運用については中規模実験をすすめており、技術的な部分も含めて展開する予定である。
  - 学認はあくまで認証の話であり、個々の IdP や SP がどのようにセキュリティを担保するかは別の話であると認識している。
  - 学認 IAL/AAL が適正に運用されているか、認証器レジストリで自己評価を行うべきだと考えている。
  - IdP を構築する際にどんな認証のシステムソフトウェアを使えばよいかわからない場合がある。それに対して認証器レジストリはソフトウェアの検証を行い、お墨付きを与えることが計画に含まれている。コードの開発については商用製品をベースに考えている。
- ・ 学認の加入状況について、大規模大学はほとんど参加している状況か。
  - 国立大学や大規模の私立大学の多くは既に参加しており、中・小規模大学が今後のターゲットになると考えている。
  - 大学の人事に関する運用ノウハウについても共有できれば謳い文句になるのではないか。
  - IdP ホスティングサービスの実証実験を現在行っており、今後新規に参加する機関に運用ノウハウを共有していきたいと考えている。

本件は了承された。

#### 11. その他

本会議に関連して以下の意見があった。

- ・ SINET の国際回線について、欧州向け回線をロシア経由から米国経由に変更し

たのは政治的理由を考慮したものか。また、初等中等教育への開放についての現状を伺いたい。

- 欧州向け回線についてはご認識の通り。遠回りになる代わりに 100Gbps から 400Gbps へ増速し、遅延値が増えてしまう分を帯域でカバーする。初等中等教育への開放については今年 4 月から調達を開始する予定だが、参加機関はそれほど多くないため SINET の利用に対して大きなインパクトはないと考えている。
- ・ 会議資料が前日に配布されればもう少し深く議論できるのではないか。
  - 可能な限り前日までに配布できるように努力したい。
  - 資料は全部一つにまとめなくてもよいのではないか。

次回開催日は、後日事務局から開催候補日について案内する旨連絡があった。

以上